

長野県における交通キャッシュレス化の目指す姿

資料 1

目指す姿

長野県は1枚のカード※で公共交通機関を利用でき、様々なお店や施設で決済ができます

※10カード（交通系IC全国相互利用サービス）【地域連携ICカード含む】



【10カード】

JR各社が発行する「Kitaca」「Suica」「TOICA」「ICOCA」「SUGOCA」、首都圏の私鉄などで利用できる「PASMO」、関西の私鉄などで利用できる「PiTaPa」、名古屋市交通局と名古屋鉄道の「manaca」、福岡市交通局の「はやかけん」、西日本鉄道の「nimoca」

【目指す姿が実現した際のメリット】

| | | 10カード利用者 | 地域連携ICカード利用者 |
|-------|-------------------------|--|--|
| 利用者 | 鉄道・タクシー・県外バス | <ul style="list-style-type: none"> ○県内だけではなく、全国の鉄道・路線バス・タクシーに現金不要でスムーズに乗ることができるようになります。 ○全国のコンビニや各種施設で決済ができるようになります。 ○普段使いの交通系ICカードで県内の鉄道・路線バス・タクシーに乗ることができるようになります | <ul style="list-style-type: none"> ○交通ポイントや福祉ポイントでお得に県内路線バスを利用できるようになります。 ○鉄道・バス共通の定期券が発行できるようになります。 |
| | 県内バス 地域連携ICカードシステム導入 | | |
| 交通事業者 | | <ul style="list-style-type: none"> ○正確な乗降データに基づいた路線再編ができるようになります ○現金取扱事務が減少し、業務を効率的に行うことができます | |
| 市町村 | | <ul style="list-style-type: none"> ○正確な乗降データに基づいた交通施策の立案ができるようになります | |



【参考】交通系ICカードとその他決済手段との比較及び導入に係る支援制度について

【各決済手段の比較】

| | シームレス | 入手 | 利用 | 処理速度 | 導入コスト | データ利用 | 定期券 |
|-------------------|-------------------|--|--------------|------------------------|------------|------------------|---------------------|
| 交通系ICカード | ◎ JR等多くの鉄道で利用可 | ◎ 誰でも入手可能 | ◎ 改札機にタッチ | ◎ 約0.2秒 | △ 比較的高額 | ◎ 鉄道・バスデータ連携可 | ◎ 鉄道・バスと一体で利用可 |
| QR決済 | × 一部地方鉄道のみ対応 | △ アプリDL必要 | △ アプリ起動必要 | △ 約1.0秒 +アプリ操作時間 | ◎ 比較的安価 | △ 鉄道と連携困難 | △ 鉄道での利用は一部に限られる |
| クレジットカード 非接触決済 | △ 一部大手私鉄のみ対応 | △ 18歳未満は発行不可 ※Visaプリペイドカードは6歳以上で発行可能 | ◎ 改札機にタッチ | ○ 約0.35~0.5秒 | ○ 比較的安価 | △ 鉄道と連携困難 | × 非対応 |

【地域連携ICカード導入支援事業（長野県）】（令和7年度まで）

| | |
|--------|---|
| 補助対象者 | ① 県内に営業所を有する乗合バス事業者 ② 県内市町村 ③ ①②を構成員とする協議会 |
| 補助対象経費 | 交通系ICカード（全国相互利用可能なものに限る。）の導入に要する経費（システム開発費、設備整備費等） ※国庫補助対象となった経費に限る） |
| 補助率 | 1/3 |

【地域公共交通キャッシュレス決済導入推進事業（国）】

| | |
|--------|---|
| 補助対象者 | ①鉄道事業者 ②軌道経営者 ③一般乗合旅客自動車運送事業者 ④一般乗用旅客自動車運送事業者 ⑤自家用有償旅客運送者 ⑥一般旅客定期航路事業者 ⑦地方公共団体 ⑧上記いずれかを構成員とする協議会 |
| 補助対象経費 | ①公共交通においてキャッシュレス決済の利用を可能とするシステム導入費及び改修費 ②キャッシュレス決済に必要な端末費（旅客施設又は車両内・船内に決済端末機器を設置する費用） |
| 補助率 | 1/3 |

※県補助事業を活用する場合一般的な導入スケジュールを踏まえれば、令和6年秋ごろまでの意思決定が必要